令和４年度　国語科学習指導研究委員会

一　テーマ

児童・生徒一人ひとりが自己の高まりを実感できる国語教室
～主体的に伝え合う言語活動を通して～

二　テーマ設定の理由

本委員会ではこれまで、日常の授業改善や活性化を目指し、教育課程研究協議会会場校の授業や各委員の実践について、意見交換や情報交換をすることで、国語科授業の在り方について学び合ってきた。

昨年までの取り組みを振り返り、改めて各委員が日々感じている授業の手応えや課題を話し合う中で、全ての子どもたちが必要感を感じ、目的意識をもって主体的に伝え合う活動を模索していきたいという共通の願いが見えてきた。また、そのような活動を工夫していくことで、一人ひとりが自己の高まりを実感できる国語教室が実現できるのではないかと考え、本テーマを設定した。

三　研究の経過

年度当初、情報交換する中で、本年度は特に**「目的意識や必要感のある伝え合い」「ＩＣＴの有効活用」**が話題となった。これらのことを、教育課程校の授業実践や子どもたちの具体の姿から学び合ってきた。

期日	内容　情報交換の内容	場所
５月７日 第１回委員会	・年間計画作成 ・日々の国語授業についての情報交換 ICT 活用について　必要感と相手意識について　伝え合う力について　課題と振り返りについて　聞くことの評価について　学習活動の明確化について　など	各校 （オンライン）
６月 22 日 第２回委員会	・小学校教育課程会場校事前授業参観、研究会 ・日々の国語授業についての情報交換 伝え合う必要感について　ポイントを示す有効な掲示物について 学習活動のモデルについて　グループ活動について　など	西内小学校
７月１４日 第３回委員会	・中学校教育課程会場校事前授業の報告会、研究会 ・日々の国語授業についての情報交換 目的に応じてメディアを選ぶ力について 中学校おける「話す・聞く」について ICT 活用について　　など	第六中学校
9 月 7 日 教育課程研究協議会	・国語研究委員実践発表 クロームブックの実践　について 「話すこと・聞くこと」における指導と評価の一体化　について	西内小学校 第六中学校
１１月２９日 第４回委員会	・教育会総委員会 ・研究のまとめ、情報交換、来年度へ向けて	各校 （オンライン）

四　研究内容

1　西内小学校の実践から

（1）研究の概要

①研究テーマ

伝え合う必要感のある場面づくりで，自分の思いや考えを豊かに表現する学びの研究

②テーマ設定の理由と研究の経過

本校は，児童数の減少が進み，今年度は一学年４名，二学年０名，三学年９名，四学年１名，五学年４名，六学年４名の合計２２名で学校生活を送っている。そこで，教科担任制で授業を進めたり，全校一斉での教科学習の場面を設けたりして，全職員で全校児童を育てることを重点に教育活動を行っている。子どもたちは，どの子も素直で，教師の問いかけに対して，まっすぐに答えようとする姿が見られる。また，休み時間には，友だち同士の会話を楽しむ姿がある。

一方で，授業中に自分の考えをみんなの前で説明する場面では，言葉に詰まったり黙ってしまったりする姿が見られる。自分の考えや思いを内面ではもっているだろうと想像できるものの，自信をもって発表することへの抵抗感はどこから来るのかを職員同士で話し合う場面を設けた。

その中で，少人数が故に，気心が知れていて，自分の考えのすべてを語らなくても，まわりがくみ取って理解してくれるので，考えを伝える場面が乏しくなってしまい，伝える必要感が希薄になったのではないかと考えた。そして，その積み重ねから，漠然とした自分の考えや思いを，相手に伝わるように言語化することの場面・経験の不足が生じてしまい，自信をもって発表できないのではないか，と考えた。

そこで，日常の授業場面の中で，相手へ「伝えたい」と願うような，必要感のある場面設定を仕組むことに取り組んでいくことにした。その中で子どもは，自分の思いや考えを伝えたくなったり，そのために考えや思いを言語化したくなったりするのではないかと考えた。

３年生では，６月に『もっと知りたい，友だちのこと』の題材で，相手の話を受けて自分なりの考えをもち，質問したり感想を伝えたりする活動場面を設けて取り組んでみた。授業後には，「話をしっかり聞いてもらえた。」「上手に質問できた。」「友だちにたくさん質問してもらえた。」という感想の記入が見られ，話す必要感のある場面設定が，相手の話をよく聞くことや，より分かりやすく話すことにつながり，学びに向かう力になることが見えてきた。

また，子どもの豊かな表現と分かりやすさにつなげるために，効果的にICTの活用を進めたい。

そして，自分の思いや考えを相手意識をもって話しながら，日常生活における人との関わりの中で伝え合う面白さを感じていく子どもの姿を見つめていきたいと考え，本テーマを設定した。

（2）単元構想

①　単元名「対話名人になろう！～グループで話し合って考えをまとめる～

（「山小屋で三日間すごすなら」３学年　光村図書）」

②　単元の目標

○比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や辞典の使い方を理解し使うことができる。　〔知識及び技能〕(2)イ

○目的や進め方を確認し，司会などの役割を果たしながら話し合い，互いの意見の共通点や相違点に着目して，考えをまとめることができる。　〔思考力，判断力，表現力等〕A(1) オ

○言葉がもつよさに気付くとともに，幅広く読書をし，国語を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする。　〔学びに向かう力，人間性等〕

③　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○比較や分類の仕方を理解して使っている。((2)イ)	○「話すこと・聞くこと」において，目的や進め方を確認して話し合い，互いの意見の共通点や相違点に着目して，考えをまとめている。(A(1)オ)	○互いの意見の共通点や相違点に積極的に着目し，学習の見通しをもって，グループで話し合おうとしている。

（３）教材研究

＜子どもの視点から＞

子どもの実態把握

・自分の思いや考えを聞いてほしいとねがう反面，相手の思いや考えを聞くことは苦手で，話し合いとして意見をまとめるのは，職員の支援が必要。
・聞いたことをメモするときに，「友だちが話した内容」・「自分の考え」・「対応した質問」のどれを書けばよいか混乱する姿が見られたので，整理した学習カードにしたい。

学習内容の系統性

・前単元『もっと知りたい，友だちのこと』では，友だちとのトークタイムの中で，教わったポイントを押さえながら，「話す・聞く・質問する」を体験することができた。
・聞くポイント「うめラいス」，話すポイント「整理して・相手を見て・声の大きさと強弱」，質問ポイント「しりとり法則・６？はてな」(NHK for school お伝と伝じろう)を合い言葉にして，繰り返し扱ってきた。
・話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，必要なことを質問しながら聞いたり，自分なりの考えをもったりすることができている。

＜教材の視点から＞

素材の教材化

・山小屋で三日間何をして過ごすのかとそれに必要な道具は何かをグループで話し合う中で，まずはメンバーのそれぞれの考えを出し合い，広げることから始めて，お互いの意見の共通点や相違点に着目して，考えを取捨選択して，まとめていくことができる。
・身近に自然があり自然と触れ合う活動も好きであるものの，子どもたちは自分たちで何をして遊ぶのかを考えたり，話し合ったりした経験は少ないので，この素材は自分の考えを伝えたいと思える場面設定ができる。

内容の関連

・話し合いの目的や目指す到達点，そこに向かう話し合いの進め方などを確認し，話し合いがまとまるように進行していく，司会の役割を果たしながら話し合うこと。

＜学習の過程の視点から＞

本単元で取り上げる言語活動

・グループで話し合い，出た意見を分類しながら考えを広げていく活動。さらに，互いの意見の共通点や相違点に着目しながら考えをまとめていく活動。

主体的・対話的で深い学び

・主体的な学びにつながる姿として，単元や授業の展開を明確にして，見通しをもつことで，自分の生活経験と結びつけながら目的や条件に沿って考えたり話し合ったりする姿に期待したい。
・対話的な学びにつながる姿として，友だちの考えと自分の考えを比べながらグループで一つの意見にまとめていく，必要感のある学習問題を設定することで，友だちと協力し，意欲をもっ

て取り組む姿に期待したい。また，ChromeBook の付箋ツール Jamboard を活用してお互いの考えを瞬時に共有し，広げ深める姿にも期待したい。

・深い学びにつながる姿として，情報を比較・分類しながら精査し，自分の考えを形成していく姿を期待したい。

（4）単元の展開

時間	学習活動	留意点	評価
1	○単元のめあて，話し合いの目的や条件と話し合いの仕方を確かめ，自分なりの考えをもつ。	学習活動の見通しをもつ。 ・自然の中での体験やキャンプの経験などを伝え合う。 ・個人で考え，その意見を出し合って数人のグループで考えを広げ，最後にまとめていく単元の流れを確認する。 ・ChromeBook の Jamboard で自分なりの考えをまとめる。	〔主体的に学習に取り組む態度〕 ChromeBook ・山小屋で三日間過ごすなら何をしたいか，また何を持っていくか，自分なりの考えをもち，見通しをもてているか確認。
2	○付録の CD 音声を聞いて留意点を確かめ，活動のイメージをもって話し合いを行い，出た意見を分類しながら考えを広げていく。	意見を分類して考えを広げる。 ・CD を聞いて話し合いの進め方やポイントを確認する。 ・グループに分かれて話し合いを進め，考えを広げる。 ・考えを伝え合い，ChromeBook のグループ共有 Jamboard にまとめる。	〔知識・技能〕 ChromeBook ・出し合った意見を Jamborad で色分けしながら，目的に沿って分類できているか確認。
3 (本時)	○前時の話し合いで広げたグループの考えを，互いの意見の共通点や相違点に着目しながらまとめていく。	広げた考えをまとめる。 ・CD 音声や前時の活動の振り返りをもとに話し合いの進め方とポイントを再確認する。 ・前時のグループで再度話し合いを進め，広げた自分たちの考えを Jamboard で何をするか，何を持っていくかをまとめる。	〔思考・判断・表現〕 話し合いの様子と ChromeBook ・グループ内で広げた考えの共通点や相違点に着目しながら考え，意見をまとめているか観察。
4	○話し合いの結果を報告し合い，考えを広げたりまとめたりする話し合いで大切なことを考える。	話し合いで大切なことをつかむ。 ・それぞれのグループの話し合いの結果と選んだ理由，話し合いでうまくいったことやうまくいかなかったことを報告し合う。 ・報告をまとめ，話し合いで大切なことをまとめていく。	〔主体的に学習に取り組む態度〕 報告会の様子と ChromeBook ・目的や条件に沿って話し合うことの大切さや，それぞれの話し合いで大事にすべきことを自分なりに考えられている。

（5）本時案

①本時の主眼

山小屋で三日間すごすならどんなことをしたいか，それにはどんな道具を持っていけばよいかを一人ひとりが考え，その意見を持ち寄ってグループで考え方を広げた子どもたちが，山小屋で何をするか，またそのために五つの道具は何を持っていくかを決めていく場面で，Jamboard を活用して友や自分の考えの共通点や相違点に着目しながら話し合うことを通して，グループとしての考えをまとめていくことができる。

②本時の位置（全 4 時間中の第 3 時）

＜前時＞個人で考えた“三日間でやりたいこと”と“五つの必要な道具”をグループで出し合い，考え方や意見を広げた。

＜次時＞グループでの話し合いの結果を報告し合い，話し合う上で大切なことをまとめる。

③指導上の留意点

・これまでの学習で，話し合いや伝え合う場面で大事にしてきたポイントを掲示しておく。
既習事項掲示物　①聞くポイント　②話すポイント　③質問ポイント１　④質問ポイント２

・ChromeBook を活用するため，ログイン⇒Classroom⇒課題 Jamboard の手順を済ませておく。

④展開

過程	学習活動　【学習形態】	○予想される児童の反応	・指導/支援 ICT 評価	時間
導入	1，前時を振り返る。【全体】	○意見がたくさん出て，付箋だらけだ。 ○みんな，やりたいことや持っていきたいものがバラバラだったね。	・前時の話し合いの結果を確認する。 各グループの Jamboard をテレビに映す。	2
	学習問題：グループで話し合い，持っていく五つの道具を決めよう。			
	2，問題を把握する。【全体】	○これをまとめて，５つの道具を決めるのか。 ○うまくまとめられるかな。	・グループで，やりたいことと五つの道具を決めることを伝える。	3
	3，見通しをもつ。【全体】	○話を聞く時は「うめラいス」だね。 ○気になったことは，質問して聞き合おう。 ○目的を忘れないように話し合ってた。 ○ちゃんと理由を言ったり，同じところや違うところをまとめたりしてた。 ○こんな風にうまく話し合えるかな。	・これまでに学習した聞くポイントや話すポイントを再確認する。 ・音声 CD を使って話し合いのイメージをもてるようにし，大事なポイントを確認する。	10
	学習課題：目的，意見の同じ所やちがう所を意識しながら，グループの考えをまとめてみよう。			
展開	4，グループで話し合う。【グループ】	○昨日出た色んな意見を，まずは同じようなものでまとめてみよう。 ○目的は同じだけど，活動は違うね。 ○自然と触れ合うっていう目的を忘れないようにしないとね。 ○話を聞いてみると，同じような所と違う所があるね。	・目的と話し合う上での注意点を確認する。 ・やることを先に決めてもよいし，道具を先に決めてもよいなど視点を与える。 前時使用した各グループの Jamboard をそのまま使って，考えをまとめるようにする。	10
	5，各グループの途中経過を見あう。【全体】	○あのグループは，色分けしてまとめてるね。 ○図形を色々使ってるな。 ○別のグループのやり方を参考にしよう。	各グループの Jamboard をテレビに映し，途中経過を見合うようにする。	5
	6，グループで話し合う。【グループ】	○みんなの活動の同じところを考えていったら『自然の中にあるものを使って遊びたい』というところが同じだね。	・見合ったことを参考にして，もう一度話し合いを進められるようにする。 広がった考えの共通点や相違点に着目しながら考え，意見をまとめる話し合いができたか。[思考力・判断力・表現	10
終末	7，本時を振り返り，次時の見通しをもつ。【全体】	○意見の同じ所や違う所を色分けしたら，うまくいったね。 ○何をするか決まったら，順番に決めていくことができたね。 ○目的に合わせて考えられたらうまくまとまったね。	・うまくいったこと，難しかったことを中心に整理させ，グループでふり返りができるようにする。 ・次時の内容を伝える。	5

（6）まとめ

場面設定については，自然豊かな環境に暮らしている，西内小学校の児童にとって，自分たちの経験や想像がベースとなって話すことができるので，よい設定であったという意見をいただいた。また，多くあるものから絞っていくという状況から，話し合いの必要感が生まれた。さらに，第１時で目的や条件を押さえ，確認したことは場面設定をより有効にすることができた。そして，３人グループという人数は一番話しやすく，話し合いにもなる良い人数だった。

３日間という期間をどう使うか，については話し合いの中でふれられることが少なかったので，「どこで」「何を」に加えて，「いつ」の要素を加えられると，より深まったのではないかという意見もいただいた。また，自分の意見の根拠となる，どうしてそう思ったのか（理由）を話せるようになるとより深まるだろう。そうすることで，話を聞く側も，相手の気持ちを受けとめた聞き方ができるようになっ

ていく。そこにつなげるためには，話し方の“型”を伝えていくことも支援の一つとして有効なのではないか，という示唆をいただいた。

効果的な支援については，ＩＣＴの活用として，chrome book の Jamboard が有効だったという意見を多数いただいた。具体的には，自分達で枠や付箋の色分けをしている姿や，瞬時に共有と視覚化ができる点，そして，普段は話をするのが苦手な児童にとっても，Jamboard をツールとして使うことをきっかけとして，話をしやすくしたり，必要感が生まれたりすることにつながったのではないかという点だ。このことから，ICT の強みというのは，容易に試行錯誤ができることと，同時共同編集ができること，さらにそこに対話が生まれることで，学習の深まりにつながっていく。ＩＣＴは，つい，その活用が目的になってしまいがちだが，繰り返し使用していくことで，児童が自然に，必要に応じて活用できる姿につなげていきたい。

また，『豊かな表現』は，個人ごとに到達点が違うことから，その点を捉えて，話し合いや個人追究の場面で，適切な教師の助言が，何よりも大事な支援だということを改めて確認することができた。そして，その『豊かな表現』につなげているため，たとえ言葉が足らなくても，自分の意見を一生懸命に伝えようとする，『豊かな話し合い』にしていきたい。

最後に，伝え合う必要感を追究してきたが，それは，教師が教えたいことではなく，生徒自身が何を学ぶかという視点を大事にしていきたい。

2　上田第六中学校の実践から

（1）国語科　研究テーマ

友と関わりながら伝え合う力を高め、
自分の思いや考えを広げ深めていく国語指導のあり方
～クロームブックを活用した授業づくり～

（2）本時の授業の視点

① 一人ひとりが課題を持ち、友と関わり合うことを通して、自分の思いや考えを深められたか。

② 集めた情報を活用して自分の考えをまとめて書き、わかりやすく伝えることができたか。

（3）単元名

「多様な方法で情報を集め、六中版『１４歳のハローワーク』を作ろう。」

（4）教材　２年「多様な方法で情報を集めよう　職業ガイドを作る」

（5）単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報と情報との関係の様々な表し方を理解して適切に使っている。	①「書くこと」において、目的に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。	①多様な方法で集めた情報を整理し、学習の見通しをもって、調べたことを粘り強く職業ガイドブックにまとめようとしている。

（６）単元の目的

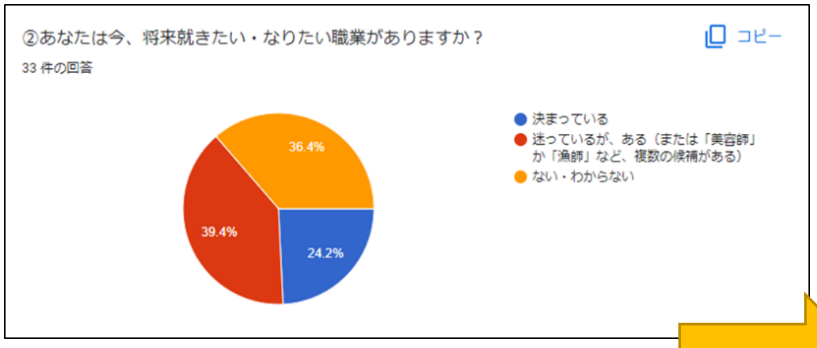
なりたい職業が決まっていない同学年の友だちや，来年度職業について学習する中学１年生に向けて，いろいろな職業やその職業の魅力について知ってもらうために，自分自身も興味のある職業についての理解を深めるために，六中版の「１４歳のハローワーク」を作ろう！

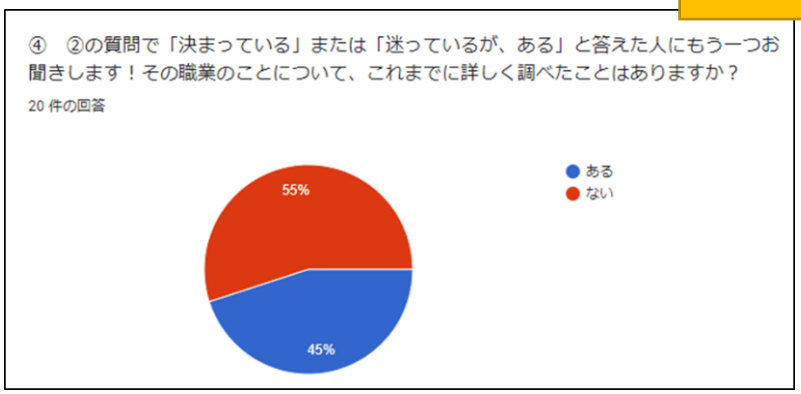
（７）　単元の見通し

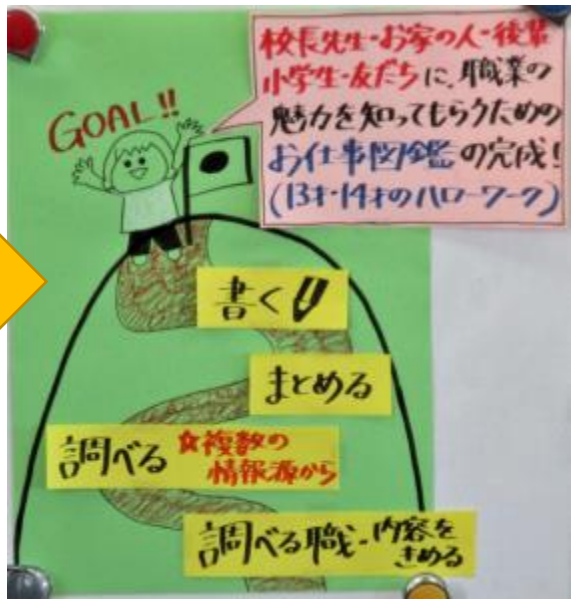
①調べる職業と、その職業の何について、どのように（方法・情報源）調べるかを決める。
②調べる。
③情報を整理しながら構成を考える。
④書く（まとめる）。
⑤本にして図書館等に展示。

（８）　単元の流れ

①第１時　これまでの学習や自分自身を振り返りながら、単元の見通しをもつ。

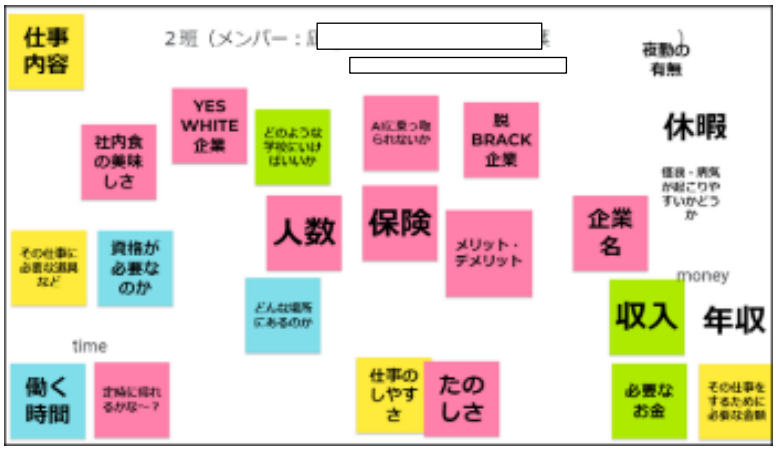






②第２時　調べる職業と項目・調べ方を決めだす。

○前時にグループで出し合った項目を参考にしながら、ジャムボードを用いて、自分がガイドブックにまとめる職業と，まとめる項目，その調べ方を決めだす。



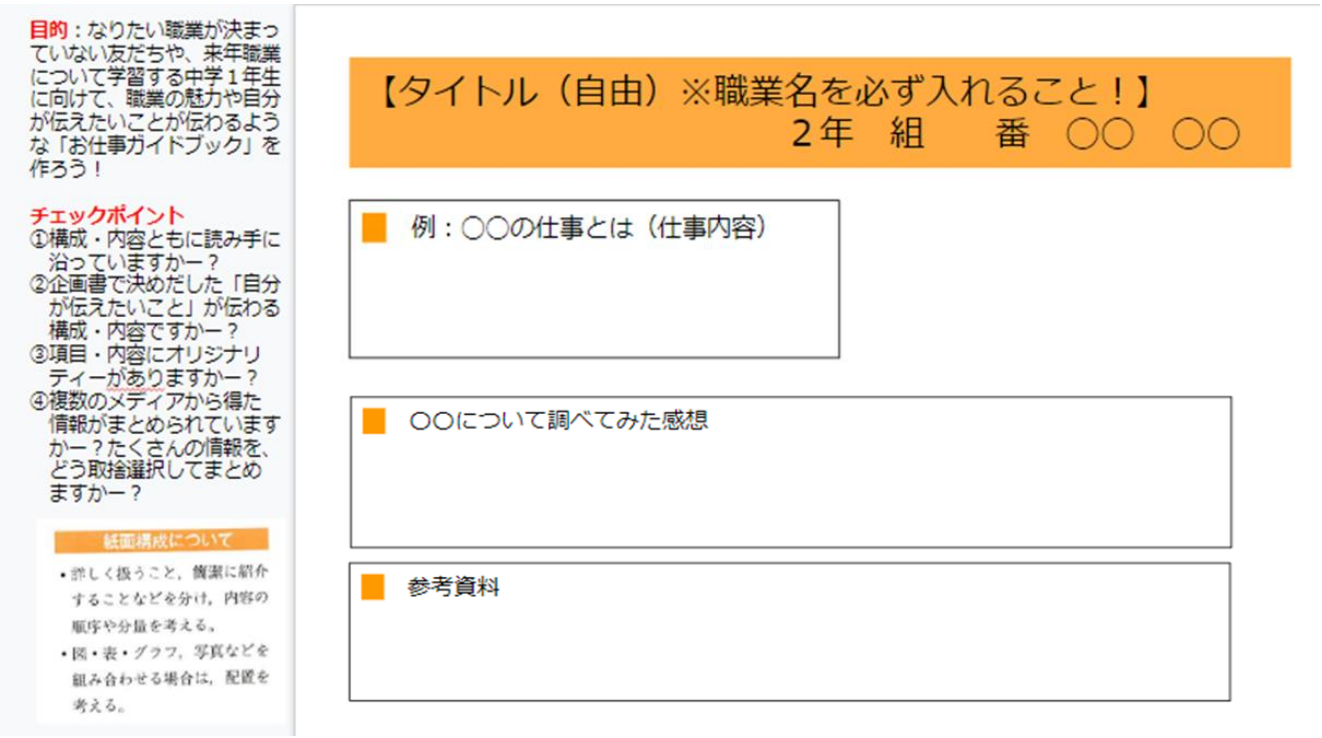
③第３時　職業ガイドブックに，どんな内容を載せるか考えながら情報をたくさん集め，整理しよう！

○図書館やインターネット等、複数の情報源から情報を集められるようにする。

④第４時　集めた情報をもとに、１年生にもわかりやすい職業ガイドブックを作ろう！

○ガイドブックの作り方・概要（スライド）について確認する。

・グーグルスライドを用い，一人一枚のスライドにまとめることを確認する。
・最終的に一つの冊子にまとめることを踏まえ，１番上には職業名を，「調べてみた感想」と「参考資料」「自分の名前」は必ず入れることを確認する。



（９）　**本時の学びの様子**

学習問題

１年生にもわかりやすく，その職業の魅力が伝わるようなオリジナルのガイドブックを作ろう！

【飼い猫のけがを治してもらったことをきっかけに獣医になりたいと、獣医の魅力を伝えたいという思いをもって取り組むＴ生の姿から】

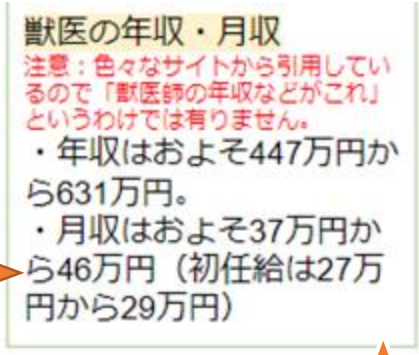
前時、「レイアウトをすることでイメージしやすくなった。」という振り返りをしたＴ生は、本時は文章にこだわっていきたいという思いをもっていた。

Ｔ生は前時まで、「見る人にとって一番知りたいことは“年収・月収”だろう」と考え、ネタ集めシートに年収・月収について情報収集をしていた。

そのため、Ｔ生は、ガイドブックの一番最初の小見出しを「年収・月収」とし、見る人の立場に立ってレイアウトすることができた。

また、「年収・月収」の内容では、ネタ集めシートとホームページとを行き来しながら、「相手に間違えのないように“注意”と示し、『色々なサイトから引用しているので、「獣医師の年収などがこれ」というわけではありません。』と正確さにこだわって、粘り強く再考する姿が見られた。

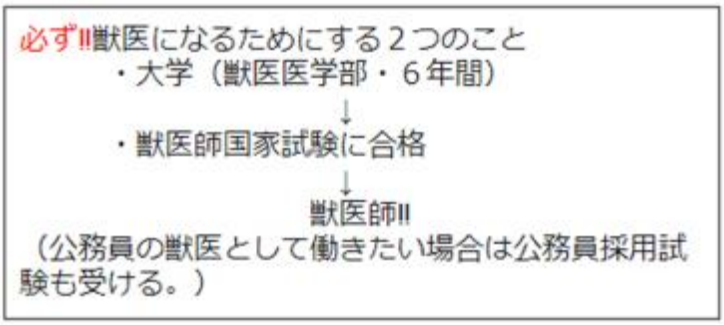
ネタ集めシート



ガイドブック

ホームページ

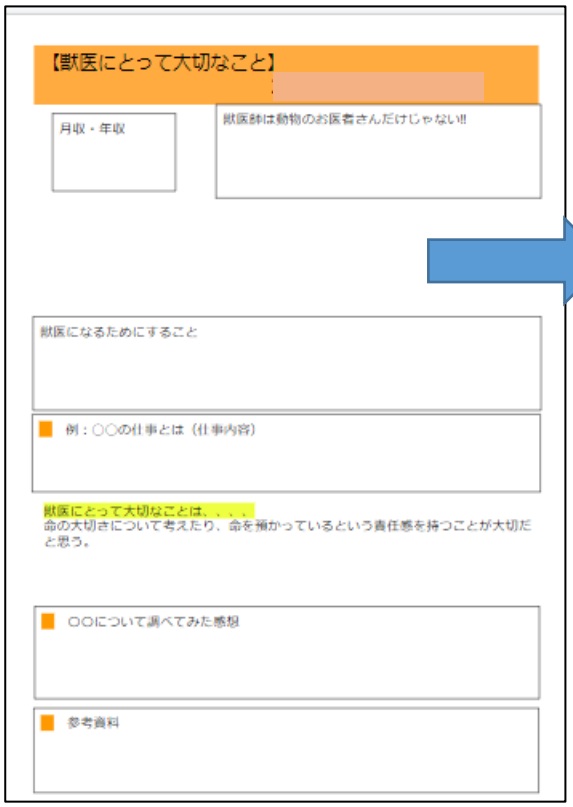
さらに、次の小見出しでは、矢印を用いて、わかりやすく図を用いて獣医師までの進路を示していた。「必ず！！」の赤い文字のレイアウトに、自分の思いがよく表れていた。

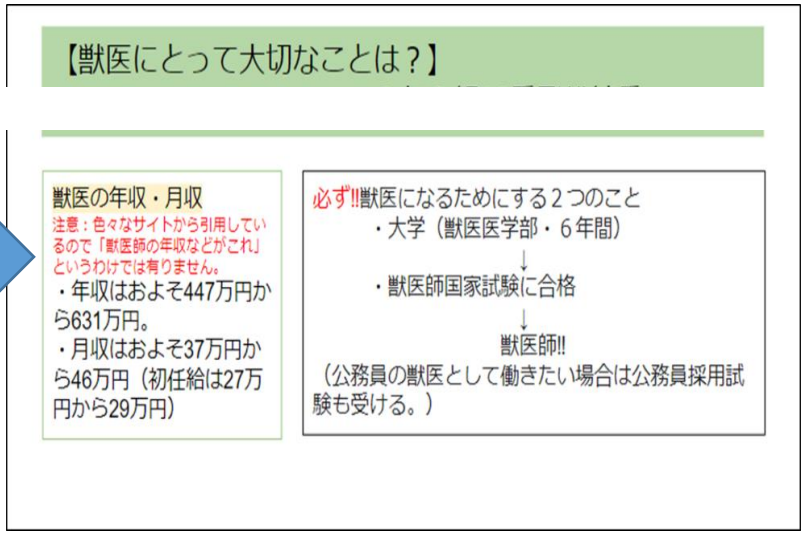


授業の終末の場面では、友達のガイドブックを画面上でパラパラと見合う中で、『医者の年収・医者になるために』を書いていたＳ生の小見出しを見つけると１２秒ほどじっと見ながら手を止めて読む姿が見られた。自分と同じ小見出しを見つけ、書き方の違いや文章について比較する姿であった。

ここから、プレゼンアプリ（スライド）を使うとすぐに友の作品を画面上で共有できることが、ICT活用の利点であることもわかった。

◎本時でのＴ生の学びの成果





本時
「文の構成やどのようにレイアウトをすればよいのかを考えた。色をはっきりつけたり、大切にしたいことと、内容が合っているかを意識して書けたので次回も

＜本時の学習シートと振り返り＞

前時
「レイアウトをすることによりイメージがしやすくなった。」

＜前の時間の学習シートと振り返り＞

◎授業者の反省

授業者としては、意見交換の時間を確保し、「伝えたいことが伝わるか」「小学生にもわかる文章か」、活発な意見交換をしながら自分のガイドブックを見直していく姿を期待していた。しかし、実際には、生徒たちは、ガイドブックづくりに没頭し、操作等、わからないことを友に聞く姿はあったが、意見交換をするところまでは、至らなかった。そこで、全体としての意見交換の時間をとるべきか迷ったが、「多様な情報で集めた情報を整理し、学習の見通しをもって調べたことを粘り強くガイドブックにまとめる」という姿を大切に考え、途中で個人の学習を止めることはしなかった。その中でも、生徒の工夫を取り上げ、生徒同士の関わりを生む声がけができればよかった。

（１０）　成果と課題

・単元の始めに生徒と一緒に学習の見通しを立てることで、「図書館の本以外に、クロームブックで調べていいですか？」と尋ねるなど、自ら学習の進め方を考えて進んで学習に取り組む姿につながった。
・互いのまとめ方を参考にしたりクロームブックの操作の仕方を尋ねたりと、生徒同士が自然と関わる姿が見られた。

・振り返りカードにも「題名や枠の位置を決められてよかった。次回は枠に書いていきたい。」といった見通しをもつ姿や、「皆が知らなそうなことを調べたい。」「情報がすこし少ないような気がしたのでもう少し調べたい。」「伝えたいことが伝わるように書きたい。」と、自分で課題をもち、これからの学習への願いをもてている姿が見られた。
・これまでの学習では、学習の見通しや活動内容を教師が細かく設定したり制限したりして、「教師が進める・まとめる授業」が多かったが、本単元を通して「生徒と一緒に学習の見通しを立てること」や、「生徒に任せる部分や生徒が試行錯誤しながら自分で気づいていけるような展開を増やし、教師はそのサポートをしたり、一人ひとりの橋渡しをしたりするような授業」の大切さに気づけた。
・今回の ICT を用いた授業を通して、「多様な情報を集めて整理してまとめる」「友達のまとめ方に学び合う」という学習にクロームブックを活用することで、生徒たちがより主体的に学習に取り組みやすくなることがわかった。
・今後、クロームブックのより有効な活用法を探るとともに、グループや個々で生徒同士の関わり合いがより活発になるような学習展開を工夫していきたい。

五　研究のまとめと課題

教育課程会場校の授業を参観したり、各委員の実践を発表したりする中で、国語授業改善に向けて学び合うことができた。その中で、本年度特に話題となった２点について、以下にまとめる。

（1）「目的意識や必要感のある伝え合い」

生活環境や経験を踏まえた場面設定をしたこと（西内小学校）や、誰に何を伝えるかを明確にしたこと（第６中学校）が、子どもたちの「伝え合う」必要感や目的意識へとつながっていた。両校の、自ら伝え合おうとする児童の姿から、国語教室の「伝え合い」には必要感や目的意識が必須であり、それらをもたせるために、場面設定や相手の決めだし、単元の見通しなどを工夫する重要性を感じることができた。

委員の実践発表「話すこと・聞くことの指導と評価の一体化を目指して」からは、「話す・聞く」の指導と評価について提案がなされた。「話すこと・聞くこと」でも「書くこと」「読むこと」でも、「目的意識や必要感のある伝え合い」の後、それをどう評価するのかが重要である。指導と評価にずれがないよう配慮された指導内容とテストのアイディアを共有することができたので、今後もさらに研究を深めたい。

（2）「ＩＣＴの有効活用」

両校の授業では、考えを可視化し、何度も編集したり瞬時に共有したりできるという ICT のよさを生かして学びを深めていく姿があった。一人一端末は、個別最適化に対応して一人ひとりが学びを深めることもできるが、今回の実践のように、子ども同士の学びをつなげるツールとしても活用できることが分かった。

委員の発表「クロームブックの実践紹介」では、ジャムボードでのグループ活動、音読の動画撮影と評価、ドキュメントでの本紹介など、具体的な活用方法を共有することができた。ICT を使うこと自体が目的ではなく、国語学習における道具の一つとして ICT を利活用していけるよう、今後も情報交換や研究を進めていきたい。